

経営比較分析表

埼玉県 皆野・長瀬上下水道組合

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	86.18	92.90	3,607

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,387	94.10	174.14

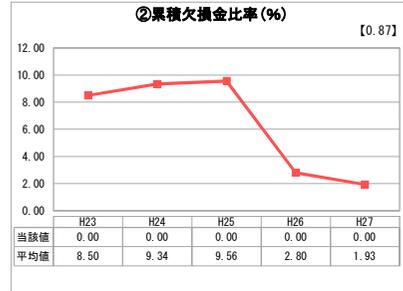
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

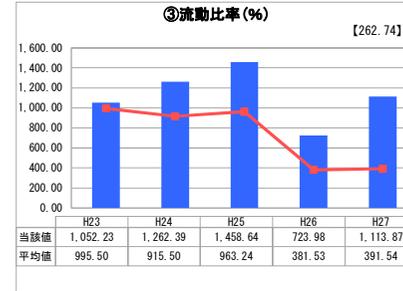
1. 経営の健全性・効率性



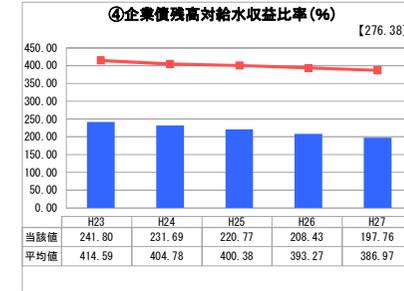
「経常損益」



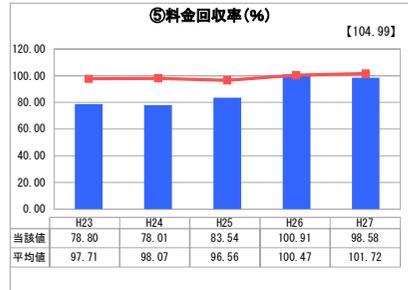
「累積欠損」



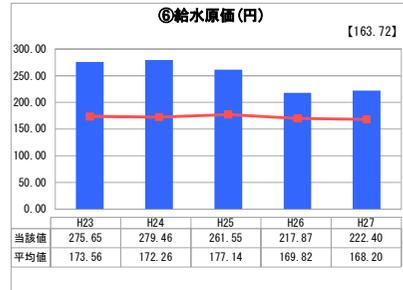
「支払能力」



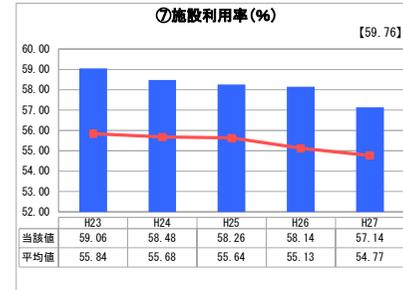
「債務残高」



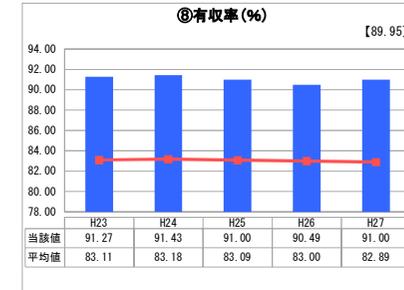
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

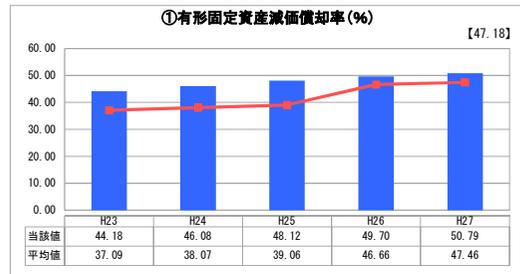


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

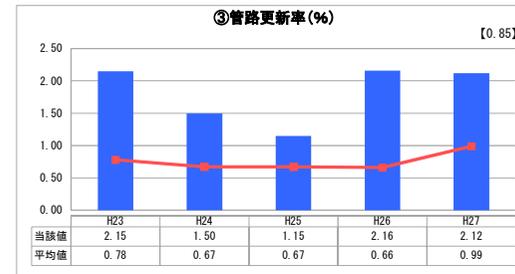
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②累積欠損比率
平成25年度から減少しており、類似団体平均値と比較してみるとやや低い数値であることが分かります。累積欠損金が発生しないことを大前提とすつ、引き続き健全経営に努めます。

③流動比率
公営企業会計制度の見直しを行った影響で平成26年度は大幅に減少しましたが、流動資産は類似団体と比較しても確保できている状況であるので、今後も将来の見込みを踏まえながら確保に努めたいと思います。

④企業債残高対給水収益比率
毎年少しずつ下がってきており、類似団体との比較でも数値が低いことが分かります。企業債発行を抑えることは有利子負債による経営の圧迫を防ぐため良い事ではありますが、世代間の公平負担の観点から、今後は計画的に企業債を活用し、施設の更新を進める事が必要です。

⑤料金回収率
平成26年度に100%をクリアできましたが、ここ数年給水収益が伸び悩んでいます。今後も100%を最低限の目標値として掲げて経営を進めていきます。

⑥給水原価
類似団体平均値と比較してみると大きく上回っており、経営改善が必要です。

⑦施設利用率、⑧有収率
いずれもここ数年は横ばいであり、かつ類似団体との平均値と比較してみても悪くない状況です。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率
緩やかではありますが上昇傾向にあります。施設の経年化が進んでいます。

③管路更新率
ここ数年下がりが気味でしたが、平成26年、27年度には2%を超えました。これは管路の耐震化と合わせた老朽管の更新がこの年度に進んだことを示しています。

これら3つの指標を総合的に分析すると、管路は投資計画に基づき老朽管の更新が行われてきているが施設の更新はそれほど進んでいないことが分かります。

しかしながら、施設の更新には多額の費用を必要とするため、今後は投資計画と財源のバランスを考慮に入れながら施設の更新を行っていきたく考えています。

全体総括

皆野長瀬上下水道組合は昭和55年に事業を開始し、その後事業を拡張し給水区域を拡大、構成町から簡易水道を引き継ぐといった経緯を踏まえながら現在に至ります。

そして、平成28年4月から秩父市、横瀬町、小鹿野町、皆野・長瀬上下水道組合(皆野町、長瀬町)の1市4町による水道事業の統合しました。広域化することで秩父地域を一つの枠組みととらえることができるので、施設の統廃合も可能となります。組合にとつての懸案事項である老朽施設の更新も合わせて進められるので、投資を抑えることが出来ます。そうした事業展開をすることで経常収支比率の改善に努めて、健全経営を目指すよう努力します。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。